

# 事業報告書

## *Rika Kindergarten*



### ☆ 事業状況

昨年度より、新幼稚園教育要領が施行され適切な教育課程の編成・実施及び必要となる教育条件の整備が求められております。当園としては、これまでの様々な教育実践の積み重ねを生かし、豊かな創造性を備え将来社会を支える子供たちが、急速に変化する昨今の社会情勢において、自立的に生きることが出来る、「生きる力」の形成を念頭に教育活動を行って参りました。

この度の教育要領の改正では、知識理解の質を高め具体的に、「何が出来るようになるか」を明確にすることを目的の一つに掲げています。

この点において、当園が今まで続けてきた教育活動の集大成の内容だと考えております。

幸いにも、教職員の資質向上は極めて高く、ベテラン教諭も結婚・出産・子育てを経験しながら集結しており、充実した教職員の体制を作り上げております。

近隣に目を向けると、認定こども園の急増や保育園との融合を求められる幼稚園が多く見られ、本来の幼児教育活動とは異なる方向性も感じます。

こうした社会環境の中で、当園は積み重ねた教育実績を中心に、社会が求める教育を真正面に捉え、自らの教育の方向性を見失うことなく、更に高めます。

未来を担う子供たちが将来活躍できるよう、基礎を構築することで社会の信頼を得るよう考えております。今後も「教育の梨花幼稚園」の教育理念を大切に、努力を重ねて参ります。

☆ 令和元年度に実施した活動についての検証は、以下の通りです。

1. 特に、「何が出来るようになるか」の意識を更に具現化するために、学習クラブの設置を行い、小学校教諭の資格を有する職員を配置し、学ぶことを具体的に求めるニーズに対応し、国語・算数の教科を利用することで、実際に何が出来て何が出来ないかを明確にした教育活動を行ない、一定の効果が得られました。
2. 昨年同様、保護者に対して、「生きる作法を身に付ける」に注目し具体的に指導することで挨拶の質を更に高め、園児一人一人に教育効果が表れるよう形にこだわり活動しました。  
又、三歳児については、家族全員で我が子の成長を実感できるようあらゆる方向から指導を試み、定着度を高めるよう継続指導を行いました。
3. 最近「子どもの声が出ない」と感じます。このことは、子ども自身の自信の無さの表れだと考え、この点を解消すべく、自信をつけさせるよう継続的な指導が必要と考え、意識した活動を試みました。  
又、一方で発達障害等が原因で支援が必要な子どもが目立つことにも配慮し、有資格者を配置した教育体制構築にも取り組み、あらゆる場面での成功体験は自信に繋がることを確信しております。全ての子どもに自己肯定感を高めることが重要であり、「～ができた！」を実感させることが必要です。1～2割の子どもが求めるレベルに達していないことを見過ごすことなくレベルの引き上げを行うことも行なっています。  
どんなに立派な教育を行ったとしても、「落ちこぼれ」が出ては評価の対象にはなりません。全学年に対し指導を徹底し、「落ちこぼれ」を出さないよう指導方法を検討し活動しました。そして、「やればできる」を実践し、「できた～!!」を感じさせることで、「生きる力」を育てます。こうした教育体制により、生きる力の質を向上させるために、思考力・判断力・表現力を高める教育活動を意識しています。
4. 幼稚園は幼児教育機関であると同様に、初めての学校集団教育の場としての機能を意識した教育プログラムが必要であり、その為には、教育活動を担当する教職員の専門性を高めプロ集団としての意識が求められます。過去からの実績を踏まえながら、一方で過去の慣習にとらわれない将来を見つめた積極的な姿勢も大切だと感じています。
5. 「たくましさづくり」「優しい子に育てる」「マーチングの完成度を高め維持する」等、従来通り指導の強化に努め一定の評価を受けています。

令和 元 年 5 月 7 日

学校法人 鷺巣学園 梨花幼稚園  
園長 高瀬 絹代